

# 第12次労働災害防止推進計画 最終年を迎えて

～死傷災害ふたたび増加傾向へ～

名古屋北労働基準監督署

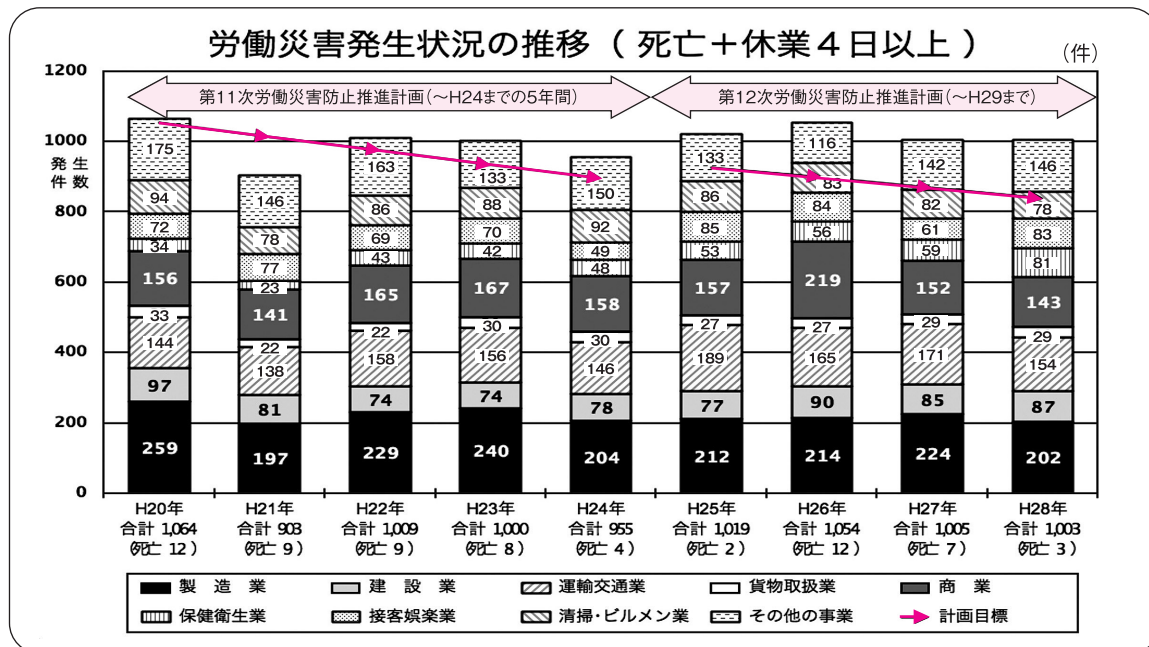
名古屋北労働基準監督署における平成28年の死亡災害については、前年の7人から4名減の3人と大幅に減少したものの、死傷災害(死亡・休業4日以上)は、1003人となり、前年の1005人と比べてほぼ同数という残念な結果となりました。

また、減少した死亡災害についても、製造業が0人から1人へ、金融広告業が0人から2人へと、大幅に増加した業種が認められます。

本年は、第12次労働災害防止推進計画(以下、「12次防」という)の最終年であることから、目標として掲げている

**"平成24年と比較して平成29年までに死亡者数と休業4日以上の死傷者数を15%以上減少させる"**

ために、すべての事業場に対し労働災害防止に向けた安全衛生管理体制の強化はもとより、論理的な安全衛生管理の推進・定着のための取り組みを強くお願いしているところです。



しかしながら、管内の労働災害による死傷者数は平成25年に前年比7%増加した後、ほぼ横ばいで推移し、平成28年においても12次防の基準年である平成24年の数値を未だ上回っている状況で減少傾向がみられません。

また、本年に入り平成29年発生3月末現在の死傷者数が前年同期比で増加に転じており、このまま推移すると12次防最終目標の"811人以下"の達成が困難となる緊急事態と言うべき状況にあります。

会員事業場の皆様方におかれましては、従業員の皆様が安心して働くことのできる職場環境の実現に日々努められていることとは思いますが、そのためには、職場内に存在するさまざまな危険性・有害性等について、リスクアセスメントの調査を実施することにより、網羅的に把握することが何よりも大切です。把握・評価されたリスクについては必要に応じて低減措置を行うほか、継続的に適切に管理されるよう、安全衛生管理体制の構築や仕組みづくりについて改めてお願いします。

■名古屋北労働基準監督署では、12次防の目標達成と論理的な安全衛生管理の推進・定着に向けて各種の施策を展開してまいります。皆様方のご支援ご協力をいただきますよう重ねてお願いします■